

コメ5キ、3000円台が目安

J A全農岐阜 櫻井宏会長に聞く



コメの価格について「今後は5キで3000円台が一つの目安」と話す櫻井宏会長＝岐阜市宇佐南、県J A会館

全国農業協同組合連合会本部（J A全農岐阜）は6月末の役員補選で、新会長に県農業協同組合中央会（J A岐阜中央会）の櫻井宏会長（ぎふ農業協同組合会長）を選出した。コメの価格高騰を巡っては、集荷業者の全農が備蓄米を一般競争入札で購入したが、流通に時間がかかり、農林水産省が随意契約に切り替えた経緯がある。コメ価格の安定化と県内生産者の所得向上が課題となる中、櫻井会長に就任の抱負と今後の見通しを聞いた。

（田中純太郎）

価格安定へ集荷は任せて

店頭でコメが品薄になる「令和の米騒動」のさなかでの会長就任となった。

「コメについては本当にいろんな課題がある。近年の暑さの影響で収量が減ったり、品質が落ちたりして、今回のコメ騒動のような状況になった」

「政府が随意契約の備蓄米を放出し、コメの値下がりにより一定の効果が現れる。」

「個人的には今のコメの価格は少し高過ぎる。ただ2年前の価格では、現在の資材高騰を考慮すると完全に農家がコスト割れしている状況だ。現実的には、2年前の水準に戻すのは難しい。」

【略歴】1951年、岐阜市生まれ。神奈川大を卒業後、74年に岐阜市農業協同組合（現ぎふ農業協同組合）に入組した。常務理事などを経て2012年に代表理事組合長に就き、21年からは代表理事組合長。現在、県農業協同組合中央会（J A岐阜中央会）の代表理事組合長、J A全農岐阜の会長も務める。岐阜市在住。73歳。

今後は、5キで3千円台の価格が一つの目安になる。これは農家が『来年も作ろう』と思える再生産可能な価格の現実的なラインだ」

2025年産のコメの収穫状況は。

「私の見立てでは、潤沢にあるという状況ではない。需給が緩和するほどには収穫できないだろう。今年の収穫量は、猛暑による影響が明らかに出てくる。国が増産を呼びかけた頃には、すでに苗の植え付けの時期が過ぎていた。大幅な増産は現実的に難しい」

「今後もコメ不足は続くともていつか。」

「昨年のように緊迫した状態までにはいかない。昨年は備蓄米がなかなか放出されず、新米が出るとすぐに消費され、年末にかけて不足した。今年は備蓄米が放出されたので、新米が消費されるタイミングも後ろにずれ、昨年のような逼迫した状況は避けられるだろう。生産量が同程度なら、状況は改善される」

「農家のコメは卸業者も直接買い付けている。」

「卸業者が直接農家からコメを買い付けることは禁止されていないが、コメを確保できる業者と確保できない業者が出てしまう。結果、コメを持っていない業者が、持っている業者から買うことになり、価格がどんどん上がり、2次や3次の卸業者、消費者が痛い目を見る。価格の安定を図るため、できるだけ全農グループを通じたコメの集荷体制に任せてほしい」